

## 「いじめ」

- ◆次頁からの文章は、2001年（平成13年）に発表したものです。  
田中雄三・森谷寛之（編）『生徒指導と心の教育 実践編』培風館  
の中の「学校における生徒指導実践（2）いじめ」という題で、  
前半部（pp. 33-41.）を担当しました。
  
- ◆この内容については、もともと授業や講演で話していましたが、  
記録として残っているのは、1995年（平成7年）10月に開催された、  
鳴教大教育・文化フォーラム「いじめを教師はどう考えるか」  
の講演録が最初です。
  
- ◆フロム（Fromm, E.）に関しては、それ以前の1986年（昭和61年）に、  
佐々木佳代（編）『都市生活の経済学』ミネルヴァ書房  
の中の「自由と個人主義」（pp. 186-194.）を担当し、  
そこで述べています。
  
- ◆「ドラえもんといじめ」に関しては、2001年（平成13年）に、  
スクールカウンセラーとして勤務していた中学校で、  
相談室の宣伝を兼ね冊子を配布しました。  
そのときの冊子を、  
本学の〈生徒指導支援センター〉の〈諸資料・研究業績〉に、  
〈教材リーフレット002 ドラえもんといじめ〉  
として掲載しています。

## 第 2 章

---

### 学校における生徒指導実践 (2) いじめ

#### 2-1 いじめに対する生徒指導の基本

ささいないたずらから犯罪行為まで、「いじめ」は非常に幅広い現象を言う。教師集団として継続して真剣に子どもたちとかかわることが根本である。山下 (1999) は、教師集団がどのようにあるべきかについて、民主的グループかどうか、ひとりで悩んでいないか、傍観者はいないか、開かれた学校か、などの観点から述べている。

深刻ないじめや非行の場合、親は当然であるが、必要ならば警察などの関係機関と教師は連携を取り意欲的に生徒指導 (児童を含む) を行わねばならない。「その行為は悪いことで許されない」と毅然とした態度で子どもを指導するとともに、「そのような子どもは悪い子だ」と決めつけるのではなく、いじめっ子の心理や置かれている状況も共感的に理解するように努める。そしてこのような「消極面の指導」とともに、子どもにスポーツや音楽などの健全な活動を奨励する「積極面の指導」(文部省, 1965), および道徳教育や人権教育なども重要である。

教師がいじめ問題に取り組むためには、子どもたちの心や人間関係、さらには家庭状況などをできるだけ理解し、いじめの構造と背景を把握している必要がある。そこで、読者にわかりやすい例として藤子・F・不二雄の『ドラえもん』を取り上げ、個々の子どもの心理といじめの心理構造について考えていきたい。

## 2-2 子どもの心理

### (1) ジャイアン

ジャイアンはのび太に対しふざけているだけで、本当は二人は仲が良いと、教師は考えていいのだろうか。ジャイアンはのび太に対し悪気などまるで意識していないかもしれない。仲良く遊んでいることもある。しかし、暴力を背景にした上下関係は明らかであり、のび太はつらい思いをしている。教師はジャイアンのいじめや乱暴な行為を見すごしてはならない。教師の人権感覚が問われているのである。実際、一見したところ親しい友人関係やグループに思えるが、その中でいじめが発生している場合はよくあることである。

ジャイアンの母は彼をよく叱り、げんこつを与えている。彼の父はほとんど出てこないが、たまに出てくると力自慢の乱暴者である。つまり、いじめっ子自身がいじめられっ子であり、ストレスがかかっているのである。教師はいじめ行為を許してはいけませんが、いじめっ子や乱暴な子を嫌ってもいけない。いじめっ子の心理的背景にも関心を向け、生徒指導を行わねばならない。

たとえば、いじめっ子(ジャイアン)に、いじめられっ子(のび太)の気持ちや感情を想像するようにと諭しても、いじめっ子にはいじめられっ子のつらい気持ちがなかなか理解できない。このようなとき、教師がいじめられた子どもの気持ちを力説すればするほど、いじめっ子は自分の殻に閉じこもっていく。まず、いじめっ子の心の防衛を緩める必要がある。そのためにも教師は、いじめっ子の気持ちも共感的に理解するように努めなければならない。いじめっ子が実はいじめられっ子であった、ということはいくつもあることである。人は自分の気持ちや感情が他人に理解され受け入れられているという思いがあるからこそ、他人の気持ちや感情を理解し受け入れることができるのである。

ところで、映画のジャイアンは乱暴だけど思いやりのある子どもであり、のび太やスネ夫たちとともに仲の良い友達どうしである。まさに映画のように、大人は子どもたちが活躍できる広々とした空間を用意し、長い時間をかけて子どもたちを見守ることが大切である。

## (2) のび太

相手のことを思いやるのび太のやさしい性格はとてもすばらしい（のび太にとって幼稚園のころまで同居していたやさしいおばあちゃんの存在は大きい）。しかし、勉強やスポーツができず、ドラえもんが常に味方についていてねたみの対象になっているなど、いじめられやすいタイプといえる。

まず、「暴力やいじめは許されない。先生たちはあなたを守る」と、いじめられている子どもの感情を受け入れ安心感の回復に努めることが教師として何より大切であり、いじめられている子どもがひとりで悩むことがないように、親も教師も子どもの発する危険信号を敏感に察知し、子どもの立場に立って最後まで守っていくべきである。

いじめられている子どもの側にもいじめを誘発している場合がある。しかしだからと言って、いじめられている子どもに、「なぜいじめられるのかあなたも反省すべき点があるでしょう。ドラえもん<sup>に</sup>頼らず勉強しなさい」などと決して指摘してはいけない。このような教師の心ない言葉は、子どものいじめられて傷ついた心に塩をぬることになる。これがショックで不登校になる子どももいる。

何よりいじめは悪いことで許されないということこそ大事である。そして、継続して子どもの話を聞き、その子どもと教師の間である程度の安心感と信頼感が築けるようになってから、つまり好ましい人間関係（ラポール）が築けてから、たとえば「クラスの人たちはあなたのことをどのよう<sup>に</sup>に思っているんだろう」とか、「剛君（ジャイアン）やスネ夫君といて楽しいときはどんなとき。逆に嫌<sup>いや</sup>なときは。あなたがどのよう<sup>に</sup>に対応したらいいか、一緒に具体的に考えていこう」などと話しかけ、クラスの他の子どもとの人間関係の持ち方を結論を急がずに二人で一緒に考えていけばよい。

のび太がジャイアンにいじめられても彼らと一緒に遊ぶように、いじめられている子どもの中には、教室や学校で孤立するのが耐えられず、自分をいじめる子どもたちのグループに属していることもよくある。人がいない所でひとりぼっちでいるより、人が大勢いる所で相手にされずひとりぼっちでいる方がつらいものである。保健室やスクールカウンセラーの相談室が、このような子どもたちの「心のオアシス」になりつつある。

### (3) スネ夫

森田・清永(1986)は、いじめ集団を、いじめっ子(加害者)・いじめられっ子(被害者)・いじめをはやしたておもしろがって見ている子どもたち(観衆)・見てみぬふりをしている子どもたち(傍観者)の四層構造に分類している。イギリスの教育省(1994)も、いじめられている生徒といじめている生徒そして共謀者と傍観者を挙げている。

このいじめの共謀者といえるのがスネ夫である。金持ちでブランド志向だけど、彼は習いごとに忙しく、寂しがりやである(どうでもいいことだが、スネ夫には弟がおり、弟のスネツグはニューヨークに住んでいる)。ジャイアン<sup>は</sup>の暴力をかさにきてのび太をいじめることにより、孤独感をまぎらわしストレスを発散しており、まるで「虎の威を借る狐」である。

スネ夫は他人の評価や物事の結果を非常に気にするタイプであり、先生の前ではいい子で、大人の顔色に敏感である。そして、自分のことを自慢し他人の欠点を指摘することにより、自尊心を維持している。スネ夫のような子どもに対し、特に問題行動が表面化するまで、積極的にかかわろうとしない教師が多いのではないか。

しかし一方、スネ夫のような子どもが好きになれず、いい子の仮面や化けの皮を剥がし、偽りの自尊心を壊そうとする教師もいる。このような教師は、スネ夫に物ではなく心の大切さに気づき、裏表のない人間になってもらいたいという気持ちから、スネ夫の問題点を指摘しているのかもしれない。しかし、教師とスネ夫の間に心の交流がなければ、自尊心は容易に再建できず、時にはこのショックで不登校になることもある。

教師が焦ってはならない。スネ夫に対し(のび太やどの子どもに対してもそうであるが)、教師は「失敗してもいいんだ。試行錯誤してみよう」というおおらかな気持ちで接する必要がある。また、スネ夫は大人をよく観察しているので、教師は子どものモデルとして、心の内面に魅力のある人間かどうか問われている。

ところで、スネ夫はジャイアンたちと一緒に遊んでストレスを発散しているからまだいいようなものの、小学生の頃から毎日のように習いごとに行き友達とも積極的に遊ぼうとしないなら、遅かれ早かれ「いい子の息切れ」(第1章参照)を起こすことは必然である。

#### (4) 出来杉

出来杉(できすぎ)は勉強をはじめ何ごともよくできるが、のび太とジャイアンの関係に対し見てみぬふりの傍観者である。このタイプの子どもたちは、教師・学校が本気でいじめ問題に取り組んでいるのかどうかということに対して敏感である。彼らの正義感を信じ、個別のいじめ問題として取り組むだけでなく、道徳教育や人権教育の視点からクラス全体、場合によれば学年全体や学校全体の問題として取り組む必要がある。さらに、保護者とともがいじめ解決に向けて一緒に立ち上げられるかという点も大切である。

しかし、建前だけのきれいごとで終わるいじめの解決策や道徳教育では子どもの心は動かない。ひとつの正義を押しつけるような人権教育では子どもの心は逃げていく。いじめや暴力行為は許さないという毅然とした態度が教師には要求されている。それとともに、人間の心の中にはやさしい気持ちや荒々しい気持ちあるいは正義感や嫉妬心などさまざまな感情があることに気づいた上で、自分自身や他人を認めることができる心が育つように、子どもたちを見守る温かくて長い目が教師には要求されている。

また、子どもたちは教師どうしの人間関係について、大人が思っている以上に敏感である。教師集団としてのまとまりに欠け、自分の担任以外の他のクラスや学年に無関心であったり見てみぬふりを教師がしているなら、子どもたちは「公」の世界で傷つかないようにやりすぎし、自分たちの「私」の世界に閉じこもろうとする。

ところで、出来杉のような「いい子」がたくさんいる有名な進学校で、教師の思いもよらぬ陰湿で深刻ないじめが起きていることがある。森田・清永は、「傍観者的態度と、激しい受験競争のなかで展開される複雑な人間関係のなかを安全にくぐりぬけようとする志向性とは同じ地平にある」と述べているが、受験の圧力のなか、できるだけ<sup>わずら</sup>煩わしいことにかかわらず効率よく勉強しようとする考えが、教師にも生徒にもある。受験のストレスを発散するための軽いいじめが、止める人がだれもないのでエスカレートし、いじめられている子どももプライドが高くてなかなか人に打ち明けられず、深刻な事態になっていることがある。

### (5) のび太の先生, ドラえもん

のび太の先生は熱心だけど、皆の前でのび太の成績や態度を怒ってばかりいる。これではのび太のプライドを傷つけ、先生までもが生徒をいじめていることになる。そして、ジャイアンやスネ夫の行為をふざけている程度と思い、いじめと認識していない。子どもの心を受け入れず、弱点や欠点を指摘し、厳しいだけの指導やしつけをするのは危険である。

いじめは相手の弱点を突いてくる。それとは逆に、お互い相手の良いところを見つけ出すことは、いじめの防止につながる。教師が個々の生徒の良いところを見つけ出すことは教育の基本であるが、ゲームの形式で生徒どうしが互いの良い所を見つけ出すことを実施している教師もいる。

ドラえもんはのび太のことをよく理解しており、二人の信頼関係はすばらしい。のび太にとって、ドラえもんは安心基地といえる。しかし、なんでも与えることによってかえってのび太の自立を妨げている。子どもの心を受け入れることは何より大切だが、やさしさだけでなく指導やしつけのための厳しさも必要である。

児童生徒はある程度自立しているという前提のもと、学校教育は行われている。しかし、自立面で問題があると思われる子どもは、たとえば親に依存し直したりして、再びやすらぎを得て自立のためのエネルギーを補給する必要がある。過保護で甘やかされて怠けていると決めつけたり、強引に自立させようとするのは間違っている。自立のための手立てを考える前に、やすらぎは与えられているか、心の居場所はあるかなど、どのような依存ができていくかについて教師は検討を要する。そして依存欲求がある程度満たされ、教師とのラポールも築かれ、本人の関心が外界に向かい始めたなら、子どものペースを尊重しながら、自立を促すための手立てが有効になってくる。

ボウルビィ (Bowlby, J., 1979) は、親の役割として、「①安心基地を供給する、②基地から探索に出かけるように励ます」の2つを挙げている。象徴的に言えば、子どもの成長にとって安心基地となる「母性」が何より大切である。そして次に、自立を促す「父性」が大切となってくる。母性のない父性だけの教育は、子どもの心を壊す危険がある。父性のない母性だけの教育は、子どもの自立心を十分に育てられない。

ところで、マンガの『ドラえもん』は第6巻で一度終わっている。ドラえもんは未来の世界に帰ることになる。泣き叫ぶのび太に対し、父親は「ひとにたよってばかりいては、いつまでたっても一人前になれんぞ。男らしくあきらめろ」と言う。その晩、両親はドラえもんの送別会をする。夜中、寝つけないのび太とドラえもんは家の外に出る。「ジャイアンやスネ夫にいじわるされても、やりかえしてやれる？」と心配するドラえもんに、のび太は「ばかにすんな！ひとりでちゃんとやれるよ。やくそくする！」と答える。そして公園で、のび太はジャイアンと二人きりでけんかする。ジャイアンになぐられてもなぐられても、のび太は「ぼくだけの力で、きみにかたないと……。ドラえもんが安心して……。帰れないんだ！」と向かっていき、ついにジャイアンに「悪かった、おれのまけだ。ゆるせ」と言わせる。朝、のび太が目を覚ますと、ドラえもんはすでにはいない。「ドラえもん、きみが帰ったらへやががらんとしちゃったよ。でも……。すぐになれると思う。だから……。心配するなよドラえもん」というのび太の心のつぶやきが、最後のコマである。

しかし、第7巻でドラえもんはのび太のもとに帰ってくる。そして『ドラえもん』は、子どもにとって夢をかなえてくれるマンガとして今も続いており、偉大なマンネリ作品として現代日本人の心性に多大な影響を与えている。

## (6) 子ども文化

読者がよく知っていると思われるマンガの登場人物をもとに、子どもの心と教師の対応について論じたが、そもそも『ドラえもん』や宮崎駿の『となりのトトロ』を見たことがない教師やスクールカウンセラーあるいは親がいるとすれば、その人は教育に熱心だとしても、子ども文化に疎く教養に欠け子ども理解ができていないのではないか。生徒指導や教育相談において、マンガ・テレビ・スポーツなどの話題をもとに子どもと雑談して、人間関係を築いておかねばならない。そうでないと、問題が起こってから子どもに「いじめられていない？」「悩みごとは？」などと尋ねても、子どもはなかなか本当のことを言おうとはしない。

実際の児童生徒についてその友人関係や家庭環境を正しく把握すること



は、そう容易ではない。しかも、まんがの登場人物のように立場が固定しているとは限らない。いじめ問題は、教師が状況把握を的確に行ってこそ自信を持って心からの指導ができ、そのときその指導は子どもたちの心に響くものとなる。そのためにも、教師は自分だけの目に頼らず、同僚・子どもたち・保護者・地域の人々から情報を得られる人間関係づくりに、日頃から努めていることが大切である。

### 2-3 いじめの心理構造

図2-1(次頁)は、のび太・ジャイアン・スネ夫・出来杉たちの心理的關係を図示したものである。このようないじめの關係は、人間關係において広く見られる。

いじめが蔓延する社会の最たるものが、独裁政治である。第1次世界大戦(1914~1918年)後、ドイツは古い君主政治から新しい民主政治に変わり、外的な支配は廃止され自由になった。しかしその数年後、自由を否定するファシズムの動きが大きくなり、再び世界大戦(1938~1945年)が起こった。なぜ、自由を極度に抑圧し侵略政策を取る独裁政治を、人々は支持したり、それに巻き込まれていったのか。この大衆の心理を分析したのが、フロム(Fromm, E., 1941)である(山下, 1986参照)。

第1次大戦後、ドイツの小さな商店主や職人、サラリーマンなどからなる下層中産階級の人々は、インフレーションと不況による経済的打撃を受けた。さらに、今まで君主制と国家を信頼してきたのにこれから何を信頼していいのかとまどい、自信を失い、無力な孤独感と懐疑に陥った。そこで彼らは、自由で自主的・自律的な人間として生きることをやめ、暴力と権威主義の源であるヒトラーの政党ナチスに追従し一体化するとともに、ユダヤ人を攻撃することによって、失われた自信や誇りを回復し、孤独と不安から逃れようとしたのである。このように、自己の独立を捨て、マゾヒズム的服従とサディズム的支配への傾向を権威主義という。また、労働者階級やブルジョアジーの人々の多くが、ナチスに強力な抵抗をせずに、政治的行為の有効性について希望を失い、疲労とあきらめの状態にあった(図2-2参照, 次頁)。

これは当時のドイツだけの問題ではない。たとえば、日本も天皇の名のもとに他国に侵略し、第2次世界大戦に突入していったのである。そしてファシズム体制下だけの問題ではなく、広く現代の私たちの問題でもある。

権威主義者とは虎の威を借る狐のようなものである。ブランド商品で身をかため、他人を田舎者とあざける者は、この狐とどこが違うのだろうか。あるいはテストの点数や学歴で人を判断するのはどうだろう。そして、クラスのボスの命令や仲間どうしの取り決めによって、だれかを無視したりいじめたりするのはどうだろう。

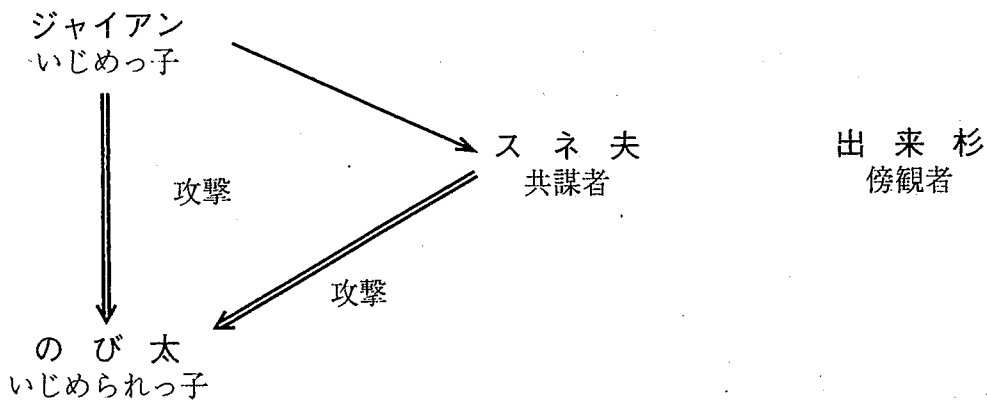


図 2-1 のび太たちの心理的關係

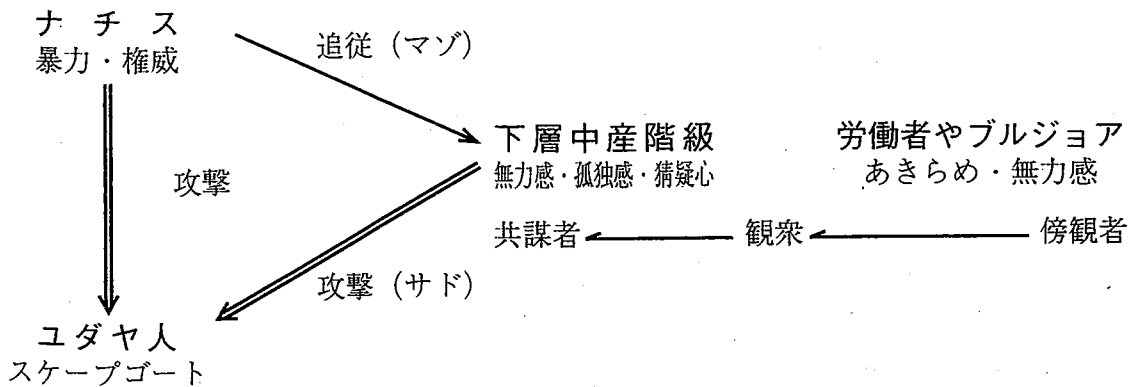


図 2-2 ナチスに対するドイツの大衆の心理 (フロム, 1941; 山下, 1995より一部改変)

- Bowlby, J. 1979 *The Making & Breaking of Affectional Bonds*. Tavistock Publications. (作田 勉 監訳 1981 『ボウルビィ母子関係入門』 星和書店.)
- Department for Education, U.K. 1994 *Bullying : Don't Suffer in Silence*. Her Majesty's Stationery Office. (佐々木保行監訳 1996 『いじめ——一人で悩まないで』 教育開発研究所.)
- Fromm, E. 1941 / 1965 *Escape from Freedom*. Avon Books. (日高六郎 訳 1951 『自由からの逃走』 東京創元社.)
- 藤子・F・不二雄 1974 『ドラえもん (てんとう虫コミックス)』 小学館.  
(藤子・F・不二雄こと、藤本弘は、1933年に生まれ1996年に亡くなる。  
『ドラえもん』は、1969年より連載される.)
- 文部省 1965 『生徒指導の手びき(生徒指導資料第1集)』 大蔵省印刷局.
- 文部省 1981 『生徒指導の手引(改訂版)(生徒指導資料第1集)』 大蔵省印刷局.
- 森田洋司・清水賢二 1986 / 1994 『いじめ——教室の病い』 金子書房.
- 山下一夫 1986 自由と個人主義. 佐々木佳代 編 『都市生活の経済学』 ミネルヴァ書房, 186-194. (山下一夫 1994 『カウンセリングの知と心』 日本評論社, 所収.)
- 山下一夫 1995 いじめ. 第1回鳴門教育大学教育・文化フォーラム『いじめを教師はどう考えるか』 鳴門教育大学総務部庶務課企画法規係, 18-25.
- 山下一夫 1999 『生徒指導の知と心』 日本評論社.